





と“The Amazing Quran”などを参考としておめします。

果たして通信 星、望 や 微 、コンピュ タ などの先端技 が用いられた器具を利用することの出来る熟 した近代科学者やいわゆる“天才”の内の一体何人が、クルア ンの中で触れられているような科学的事 の することが出来るでしょうか？ またそれにはどれ位の がかかるでしょうか？ 教育さえ受けていなかった1400年以上前の人物が、それらの情が入った 典を著したという主 は理に ったことと言えるでしょうか？

クルア ンでは 造の神秘や さについて、人 の限られた能力では全てを知り尽くすことは出来ないということに して触れられています (67: 3 4) 。しかし 示はそれにも わらず、 々な自然 象によって人 の知的好奇心を煽り、真 を求めるよう促すかのようです。またそのような威 に ちた 度は、あたかもその著者が私たちの不信仰に挑 しているかのようでもあります。 疑主 者に して を遣うという意味で、その内の科学的 述の正 さにおいて一つや二つは、推量や偶然の 果だったとしましょう。それでは、それら全てが正しい 率とは一体どのようなものとなるのでしょうか？

クルア ンの物理的宇宙に わる 述と特定の科学的 念とを比 すると、私たちはそこに根深い 似性を 出すことが出来ます。しかし、とりわけモ リス ブカイユ博士が研究しているようにクルア ンが 立っている点としては、自然学の 明またはそれへの みに し、他の全ての古い研究における った概念を排していることです。そしてクルア ンは、 代科学において 立されている多くの に し、ただ一つの矛盾も いままに近代的知 の 述に成功しているのです<sup>11</sup>。

ブカイユ博士は彼の研究において、以下のような に辿り着いています：

“ムハンマドの 代における知 レベルの 点から、科学的事 と 性のあるクルア ンの 述の多くは、人 によるものであると 付けるには余りにも 理があります。それらの 句が 示によるものであるとすることには至 正当性があるだけでなく、 代における研究でも一般的 点から 解であるとされる科学的 述の正 性と信 性から同 に、それに特 な地位を与えることが当然なのです。” <sup>12</sup>

クルアンの源泉であるという可能性として、私たちは以下の点を考察してきました：

1. ムハンマドが文盲であるという事
2. ムハンマドの さ
3. クルアンの文体
4. クルアンとバイブルの相 性
5. クルアンによる 魔、そして道 への教え
6. クルアンにおける 史的 科学的事 の 述

以上の点が、次に述べられるように、クルアンの の源泉または著者に しての“消去法”を用いる助けとなります：

ムハンマド：

私たちはクルアンの著者の可能性としてまずムハンマドをリストから消去することが出来ます。上 の1、2、3、5、6で述べられたように、彼がクルアンを いたことは不可能であると 付けられます。

アラブ 人、学者、その他：

同 に、（少なくとも）2、3、そして6で述べられた 点から、私たちは他のアラブ人たちをリストから除外することが出来ます。

他の非アラブ人：

アラブ人たちをリストから除外した同じ理由により、非アラブ人学者や 人、宗教人たちも同 に除外されることとなります。

キリスト教僧 またはユダヤ教ラビ（ユダヤ キリスト教の源泉）：

これらは、クルアンの源泉として1、2、3、4、6の点によって不合理であると付けられます。

魔（またはいわゆる、そしてそれらの仲とされるもの等）：

この肢も同様に、上の点、特に5番によって否定されます。

神：

クルアンの著者と源泉にして、ここまで容可能な肢がない状態においては、私たちはクルアンの主とする通り、それが神によって言者ムハンマド（神の称あれ）を介して示されたものであると理性によって信じる以外にはほぼ道がなくなってしまいます。この立がより理にっているよう映るのは、その肢を客的に消去することが出来ないばかりでなく、それがと内容において人の造主から来たものであること、そしてきであるとむことが出来るからなのです。クルアンの源泉としてのあらゆる可能性においては、唯一の肢であり、クルアンの中でも自らを著者であると主した神のみが最もした肢なのです。

それ故、神こそがクルアンの著者であるとするこの立が最も有であり、クルアンが神による示であるとする主を反する者にする挑（または矛盾の：クルアン4: 82）は今なおしているのです。この作に自ら着手した私たちは、クルアンが神の言であることを盲目的に信じるのでなく、それが事として、あらゆる可能性の中でも最もしており、また筋の通った肢であることを信出来るのです。に、それらのをした果、の主をすることこそは盲目的信仰によるものであると言えるでしょう。

注：

クルアンが神によるものであるというは、神の存在のでもあります。クルアンの著者によりしたの著者の可能性がい限り、神の存在はなのです。

---

Footnotes:

1

参照: Norman Daniel' s Islam and the West: the Making of an Image, 英国: Edinburgh University Press, 1989年, 83  
94 , 等

2

H.M.Njozi, The Sources of the Quranからによる印用:A Critical Review of the Authorship  
Theories,サウジアラビア:WAMY Publications,1991年,96

3

Maurice Bucaille, The Bible, the Quran and Science, インディアナポリス: American Trust Publications, 1978年

4

Jeffrey Lang, Struggling to Surrender, メリ ランド: Amana Publications, 1994年

5

Malik Bennabi, The Quranic Phenomenon, A.B. Kirkary , インディアナポリス: American Trust Publications, 1983年

6

Keith Moore, The Developing Human, 第三版, フィラデルフィア: W.B. Saunders Co., 1982年

7

I.A. Ibrahim, イスラ ム理解の 解付ガイド, ヒュ ストン: Darussalam Publishers, 1997年” ( <http://www.islam-guide.com/jp/>)

8

H.M. Njozi, The Sources of the Quran: A Critical Review of the Authorship Theories, サウジアラビア: WAMY  
Publications, 1991年

9

(<http://users.erols.com/ameen/amazingq.htm>)

10

Gary Miller, The Basis of Muslim Beliefs, クアラルンプ ル: Prime Minister' s Department - Islamic Affairs Division,  
1995年

11

Maurice Bucaillie, The Bible, the Quran and Science, インディアナポリス:American Trust Publications, 1978年

12

[76]同上,163

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/15>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。